

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 18 日現在

機関番号：32678

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K13242

研究課題名(和文)遊び/ドラマ/演劇連続体による保育者資質としての感性の育成プログラムの開発

研究課題名(英文) Program Development for Students' Sensibilities in Early Childhood Education with Play/Drama/Theatre Continuum

研究代表者

小林 由利子 (KOBAYASHI, YURIKO)

東京都市大学・人間科学部・教授

研究者番号：50245297

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：3大学においてアクション・リサーチを実施し、最終版「遊び/ドラマ/演劇連続体による保育者資質としての感性の育成プログラム」を作成した。

日本乳幼児教育学会第25回・第26回大会自主シンポジウムと研究発表で研究成果を発表した。さらに、研究成果の一部として「授業を通して保育者資質としての『表現力の育成 演劇的手法の可能性に着目して -』が、『保育士養成』に掲載された。研究成果を報告書にまとめ、研究の一部を『乳幼児教育学研究』に投稿した。

研究成果の概要(英文)： This study developed the program of Students' Sensibilities in Early Childhood Education with Play/Drama/Theatre Continuum through Action Research.

We have presented the research results at the symposia and presentations at the 25th and 26th Conferences of the Japanese Society for the Education of Young children. The part of the research was published in Research of Early Childhood Education & Care Teacher Training. The research results were put together and organized into the report. Also the part of the research result was contributed to The Japanese Journal for the Education of Young Children.

研究分野：演劇教育

キーワード：保育者養成 感性 表現 演劇教育 遊び 児童演劇 保育者資質 ドラマ教育

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 労働経済学者ヘックマンの研究により、良質な就学前教育を受けた子どもは、大人になってからの経済的豊かさを獲得できることが明らかにされた。この研究により、欧米では、就学前教育に対する助成金が急増した。その影響の一つとして、イタリアのボローニャで毎年開催されている乳幼児のための演劇と文化国際フェスティバルがある。このフェスティバルによって、乳幼児のための演劇がヨーロッパで発展し、さらに世界的に普及している。

(2) 日本の保育者養成における「児童演劇」の授業は、演劇作品上演を目的にする傾向がある。しかし、保育者資質としての感性を育成するためには、子どもの遊びとドラマ／演劇を関連づけた体系的プログラムが必要である。さらに、アクティブ・ラーニングと結びつけたアクティビティの開発が求められている。

### 2. 研究の目的

保育者に必要な感性を明らかにし、遊び／ドラマ／演劇連続体の考えにもとづく活動を通して、保育者資質としての感性を育成するためのプログラムを開発することである。

### 3. 研究の方法

(1) 理論研究は、「感性」と「遊び」について検討し、保育者資質としての「感性」と「遊び／ドラマ演劇連続体」の定義をする。

(2) 最新のドラマ／演劇研究の先行研究を検討する。

(3) 保育者養成をしている3大学の授業におけるドラマ／演劇活動の事例研究をする。

(4) 以上のことを踏まえて仮説「遊び／ドラマ／演劇連続体による保育者資質としての感性の育成プログラム」を作成し、実践する。観察方法は自然観察法である。アクション・リサーチによりプログラムの実践・修正を繰り返し、最終プログラムを作成し、報告書にまとめ、保育者養成教員向けワークショップを実施する。

### 4. 研究成果

(1) 平成27年度の先行研究と仮説プログラムを実践し、記録し、検討し、修正するアクションプログラムの実施を通して、最終版「遊び／ドラマ／演劇連続体による保育者資質としての感性育成プログラム」を開発した。

(2) 日本乳幼児教育学会第26回大会自主シンポジウム「大学教育におけるアクティブ・ラーニングを考えるー演劇的手法を活用した授業展開の可能性ー」において、小林・椛島・木村・花輪の4名は、本研究の研究成果を発表した。木村は、ギルと中村雄二郎の感性のとらえ方を総括し、類似点を指摘した。椛島は、学生の感性を育成するための前提として、学生の「きくこと」の能力の重要性を

指摘した。花輪は、学生の叙事的表現から抒情的表現への変換の重要性を指摘した。小林は、アクティブ・ラーニングとしてのドラマ活動というアクティビティの体験をナラティブに記述することの重要性を指摘した。さらに小林は、個人発表の「遊び／ドラマ／演劇連続体による保育者資質としての感性の育成プログラムの開発(2)」において、記録としてポートフォリオを導入する必要性を指摘した。

(3) ボローニャの乳幼児のための演劇と文化国際フェスティバルの実施調査において、俳優が劇場内に乳幼児を招き入れるところから演劇作品が始まり、最後は乳幼児が舞台上がり舞台装置等を使って遊ぶまでが、演劇作品の一連の流れになっていることを明らかにした。俳優は、乳幼児と直接的にコミュニケーションしたり、物語の登場人物として乳幼児と間接的にコミュニケーションしたりしていた。ここから、乳幼児のための演劇の俳優は、即興性が求められることを明らかにした。したがって、乳幼児のための演劇作品は、子どもの遊びを基盤にしていて、乳幼児が自然に演劇の想像世界に入っていけるようになっていた。さらに、俳優は登場人物になったり、俳優になったり自由に想像世界と現実世界を行き来していた。俳優は、乳幼児に登場人物になっている過程を見せたり、モノを見立てる過程を見せたり、乳幼児を演劇作品に参加させたりしていた。つまり、遊び／ドラマ／演劇連続体という考えを体現している演劇作品がボローニャでは多数上演されていた。

(4) カンタベリー大学(NZ)とウーロンゴン大学(オーストラリア)における保育者養成プログラムと幼児教育施設の保育実践と保育記録について実地調査を実施した。ニュージーランドの「テ・ファリキ」に基づくポートフォリオとラーニング・ストーリーによる記録は、日本の演劇的手法を導入した授業の記録に応用できることを明らかにした。学生の保育者資質として感性を育成するためには、アクティビティを体験するだけでなく、グループ・ディスカッションにより振り返りを行い、学生が一人でラーニング・ストーリーを含むポートフォリオを作成することを繰り返すことが重要であることを明らかにした。

(5) 2年間の研究過程と研究成果を研究成果報告書にまとめた。さらに、日本乳幼児教育学会研究雑誌に本研究の研究成果についての論文を投稿した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計13件)

① 小林由利子、英米のドラマ教育(8)ー言語表現育成のためのクリエイティブ・

- ドラマをアクティブ・ラーニングに応用する可能性一、東京都市大学人間科学部紀要、査読無、Vol. 8、2017、pp. 1-9
- ② 小林由利子・柁島香代・木村浩則・花輪充、遊び／ドラマ／演劇連続体による保育者資質としての感性の育成プログラムの開発、挑戦的萌芽研究成果報告書、査読無、Vol. 1、2017、pp. 1-89
- ③ 柁島香代・森下葉子、自然観察場面における母親の3歳児に対する働きかけの特徴一子育て支援施設の事例から一、文京学院大学人間部研究紀要、査読有、Vol. 18、2017、pp. 187-193
- ④ 森下葉子・加須屋裕子・柁島香代・小栗俊之・金子智栄子・柄田毅、大学内子育て支援施設の役割と課題一地域利用者からの声をもとに一、文京学院大学人間学部研究紀要、査読有、Vol. 18、2017、pp. 37-45
- ⑤ 花輪充・川合沙弥香、岡田陽が探求した芸術教育の意義一豊かな感性の育成を目指した演劇教育に着目して一、東京家政大学博物館紀要、査読無、Vol. 22、2017、pp. 11-30
- ⑥ 花輪充・山本直樹・鴨志田加奈・川合沙弥香、東京家政大学博物館紀要、査読無、Vol. 22、2017、pp. 31-52
- ⑦ 小林由利子・森茂岳雄・山本直樹、みんなシアターハンズオンからマインズオンへ、国立民族学博物館報告、査読有、No. 138、2016、pp. 103-113
- ⑧ 木村浩則、若い教師の育ちをどう支えるか、民主教育研究所年報、査読無、Vol. 16、2016、pp. 107-113
- ⑨ 花輪充・砂上史子他3名、論説／あそびと表現活動一大人がかかわることの意味一、月刊幼児教育じほう 2016⑨、査読無、Vol. 44、2016、pp. 5-11
- ⑩ 花輪充・山本直樹・鴨志田加奈・高谷温子、坪内逍遙が児童教育にもたらした偉業一家庭用児童劇の導入的意義一、査読無、東京家政大学生活科学／温故知新プロジェクト2015成果報告書、2016、pp. 1-7
- ⑪ 花輪充・青木淑子・進藤敬子他7名、教員養成における演劇体験のリアリティーをどう考えるか、演劇と教育、査読無、Vol. 691、2016、pp. 24-29
- ⑫ 小林由利子・柁島香代・木村浩則・花輪充、授業を通じた保育者資質としての表現力の育成一演劇的手法の可能性に着目して一、保育士養成研究、査読有、Vol. 33、2016、pp. 41-50
- ⑬ 小林由利子、英米のドラマ教育の考察（7）一クリエイティブ・ドラマとDIEの変遷一、東京都市大学人間科学部紀要、査読無、Vol. 7、2016、pp. 1-14

[学会発表] (計 10 件)

- ① 小林由利子、遊び／ドラマ／演劇連続体による保育者資質としての感性の育成プログラムの開発（2）、日本乳幼児教育学会

- 第26回大会、2016年11月26-27日、神戸女子大学・神戸女子短期大学（兵庫県・神戸市）
- ② 柁島香代（代表）・小林由利子・木村浩則・花輪充、大学教育におけるアクティブ・ラーニングを考える一演劇的手法を活用した授業展開の可能性、日本乳幼児教育学会第26回大会、2016年11月26-27日、神戸女子大学・神戸女子短期大学（兵庫県・神戸市）
- ③ 小林由利子、ドラマ／演劇による幼児のための博物館プログラム開発、日本保育学会69回大会、2016年5月10-11日、東京学芸大学（東京都、小金井市）
- ④ 柁島香代（代表）・森下葉子、母子の共同注意場面における足場づくり（scaffolding）の機能、日本保育学会69回大会、2016年5月10-11日、東京学芸大学（東京都、小金井市）
- ⑤ 小出美緒（代表）・岩野芽衣花・足立祐亮・柁島香代、在教諭と預かり保育担当者の連携のあり方、日本保育学会69回大会、2016年5月10-11日、東京学芸大学（東京都、小金井市）
- ⑥ 羽鳥希（代表）・柁島香代、自由遊びにおける身体活動量と基本的な動作の種類の実態、日本保育学会69回大会、2016年5月10-11日、東京学芸大学（東京都、小金井市）
- ⑦ 花輪充、保育者養成課程の学生を対象とした劇遊びプログラムの開発一『お話劇』の取り組みと効果一、日本保育学会69回大会、2016年5月10-11日、東京学芸大学（東京都、小金井市）
- ⑧ 花輪充（代表）・田澤里喜・鴨志田加奈・平山許江、学習者の創造性を滋養する授業プログラムの検討（2）一授業実践の意義、内容、課題に着目して一、日本保育学会69回大会、2016年5月10-11日、東京学芸大学（東京都、小金井市）
- ⑨ 花輪充・可合沙弥香、保育における人形の役割と効果一人形を効果的に用いる観点の実践的検討一、日本保育学会69回大会、2016年5月10-11日、東京学芸大学（東京都、小金井市）
- ⑩ 花輪充・山本直樹、演劇を専門としない教員のための劇表現指導教材の研究（2）一学生に対する評価を中心に一、全国保育士養成京芸界第55回研究大会、2016年8月26日、いわて県民情報交流センター「アイーナ」（岩手県、盛岡市）

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小林 由利子 (KOBAYASHI, Yuriko)  
 東京都市大学・人間科学部・教授  
 研究者番号：50245297

(2)研究分担者

梶島 香代 (KABASHIMA, Kayo )  
文京学院大学・人間学部・教授  
研究者番号： 00383307

木村 浩則 (KIMURA, Hironori )  
文京学院大学・人間学部・教授  
研究者番号： 40315271

花輪 充 (HANAWA, Mitsuru )  
東京家政大学・家政学部・教授  
研究者番号： 10572711